

■4 研究に関する事項

第4次長期計画後半期4年目となる2008年度は、4長前半期における研究関連事業の実績と経過の反省とポスト4長を見据えつつ、引き続き研究高度化推進事業や学内研究助成制度をはじめとした事業を継続実施していく。

ポスト第4次長期計画に向けては、これまで策定してきた研究計画を引き続き推進していくとともに、政府の第三次科学技術基本計画や研究を取り巻く諸情勢を視野に入れながら、さらなる研究実績の向上や研究環境の改善、また、研究支援体制の強化を図りつつ、21世紀に龍谷大学が世界に通用する先進的で卓越した教育研究機関として広く認知されるべく、本学における「研究支援に関する取り組み」、「研究高度化推進事業の展開」、「COEに関する取り組み」、「学外資金による研究の推進」、「付置研究所の取り組み」、「知的財産に関する取り組み」を事業計画の柱として積極的な事業展開を行っていく。

1 研究支援に関する取り組み

2007年度から導入した研究員制度及び2008年度から導入する個人研究費、出版助成制度等の新たな支援制度について検証を行いつつ限られた財源の中で今日の研究環境を見据えた研究環境の向上を目指した研究支援を実施していく。

2 研究高度化推進事業の展開

文部科学省学術研究高度化推進事業、「里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター（2004年度採択）」「アフラシア平和開発研究センターAFC（2005年度採択）」「古典籍デジタルアーカイブ研究センターAFC（2006年度継続採択）」「情報通信システム研究センターHRC（2006年度採択）」「革新的材料・プロセス研究センターHRC（2006年度採択）」「人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター（2007継続採択）」「矯正・保護研究センターAFC（2007年継続採択）」を引き続き推進するとともに、2007年度で終了した、「地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチセンター（2003年度採択）」について3ヶ年の継続実施を行い8件のプロジェクトを実施すると共に、大学が独自に実施する高度化推進事業として「アフガニスタン新発見仏教遺跡学術調査」を継続し、2008年度は第4次学術調査隊の派遣に加え、アフガニスタンから若手研究者を本学に受入れ、研究者育成に取り組み、今後のアフガニスタンの文化復興支援への寄与と仏教研究の推進に努めつつ、より一層の研究の高度化を推進していく。また、「私立大学学術研究高度化推進事業」に変わり2008年度から新

たに設けられる「私立大学戦略的基盤形成支援事業(仮称)」についての取り組みについて検討を行い、高度化推進事業への積極的な展開を図る。

なお、2008年度は大学独自の外部評価を「情報通信システム研究センターHRC」を対象に実施し、評価結果をもとに同研究プロジェクトの後半期における研究活動への有効活用を図る。

3 COEに関する取り組み

2008年度本学では文部科学省グローバルCOEプログラムに「仏教文化に関する世界的教育研究拠点の形成」（拠点リーダー入澤崇教授）を申請した。グローバルCOEプログラムの提唱する世界的な教育研究拠点の形成という理念は本学の目指す大学像と同じくするものであり、その積極的な推進に努める。

また、COEプログラム採択の可否にかかわらず本プログラムへの取り組みは、本学の建学の精神と本学が独自に果たすべき社会的責任に鑑み、本学が取り組むべき重点課題と位置づけ、持続的な拠点の形成に向けて研究体制の構築を行い、研究成果の積極的な社会発信に努める。

4 学外資金による研究の推進

出来る限り学費に依存することなく研究の財源を確保していくためにこれまで以上に科学研究費補助金等の公的補助金及び企業等からの受託研究費等の外部資金獲得に積極的に取り組んでいく。

科学研究費補助金は毎年度国家予算額が増額していることに鑑み申請件数、採択件数ともに増加させることに努め昨年度に引き続き補助金額1億円以上の獲得を目指す。

私立大学学術研究高度化推進事業の廃止に伴い新たな私立大学戦略的基盤形成支援事業（仮称）についての申請計画を策定し高額研究費の獲得に努める。

受託研究費及び奨学寄付金についてはRECとの一層の連携を強めつつ本学の知的資産や研究シーズの有効活用に努め昨年以上の資金獲得を目指す。

5 各研究所の取り組み

2007年度には「研究所の在り方」についての答申をおこなった。2008年度は、答申にある、4つの付置研究所の有する諸課題を整理しつつ、各々の研究所では「研究所の独自性」「研究課題の多様化」に考慮した本学の研究基盤としての機能を果たしうる新しい研究所の実現に向けて取り組んでいく。